

会 議 要 旨	
◎会 議 名	第 20 回合志市中小企業等活性化会議
◎開 催 日 時	平成 28 年 2 月 17 日（水） 午後 1 時 30 分より 2 時 30 分
◎場 所	合志市役所 合志庁舎 2 階 庁議室
◎出席委員	上林会長・池永委員・小幡委員・辻委員・緒方委員 松岡委員・穴井委員・金田委員・西畠委員 濱田委員・建岡委員
◎欠席委員	多賀委員・出家委員・坂井委員
◎出席者	《事務局》井村課長・緒田班長・末永
◎議 題	・ 会長挨拶 ・ 議題 1) 優良中小企業表彰について 2) 事業所アンケート調査について 3) 事業実績及び平成 28 年度計画について 4) その他

【 開 会 】 事務局

第 20 回合志市中小企業等活性化会議を開催します。

【上林会長挨拶】

消費税 10%導入に備える準備をしなければならない。また、地方創生に係る色々な施策も打ち出されており、我々も行政と一体となって頑張っていこうと思っている。この活性化会議で意見を出し合いたい。

【議 題】

(1) 優良企業表彰について

(緒田班長)

- ・ 優良中小企業表彰推薦についての概要説明
- ・ 今年度推薦団体についての説明（黒石原産業株式会社・株式会社釜屋）

(上林会長)

説明のあった2件についていかがか。

(委員)

異議なし(全員賛成)

(2) 事業所アンケート調査について

(緒田班長)

- ・来年度予定のアンケート調査案の説明。
- ・5年前の産業実態調査を基に前回の案から修正している。
- ・5年前のものから大幅に設問を減らしているが、雇用に関する設問を追加している。
- ・福祉課より障がい者の雇用・製品に関するアンケート案も別紙追加している。

(上林会長)

事業所アンケートについて意見は。

(松岡委員)

業種のほかに資本金が5年前の調査にあったと思う。増資・減資、新設された法人等あると思うが、その辺りもこの5年間の中での移り変わりの様子が分かれば良い。

また、平成27年度に熊本県が事業承継支援センターというものを一般社団法人化して設立している。地域の中小企業が丁度団塊の世代から第2世代へとバトンタッチをする時期にきている。事業を継続するのか廃業するのか後継者対策をどうするのか、この件については国や県もかなり力を入れている。このアンケートで事業承継の状況についても把握したらどうか。

(上林会長)

2点の提案があったがいかがか。後継者がいるかいないかということのみか、どこまでつこんだアンケートにするのか。

(松岡委員)

後継者が決まっているのか、いないのか。もし決まっているならどういう人なのか。従業員から採用するのか、子どもが継ぐのか、企業買収、M&Aでいくのか色々な方法が考えられる。企業を存続したいと考えてのことであるだろうが、「存続したいが後継者がいない」など黒字倒産や廃業が全国でも増加している。合志市での状況を把握しては。

(上林会長)

そのあたりは市役所としてはいかがか。あと2~3問増えるということだが。

(松岡委員)

特に相続税の対策などもしっかり考えている。

(池永委員)

熊本県からもアンケートがきていた。

(緒田班長)

5年前もその設問は入っていたか。

(松岡委員)

確か入っていた。手元に資料もある。事業承継・後継者問題についてもいくつか設問が設けられていた。同じような設問で5年前とどう変わったかという比較が出来ればいいのかと思う。

(井村課長)

5年前のアンケートは結構枚数が多かった。

(上林会長)

アンケートも難しい。あまり設問が多いと回答率が落ち、あまり簡単だとデータが揃わない。

(井村課長)

このアンケートに加えて事業の継続など、松岡委員からの意見の部分を加えたぐらいの内容でよろしいか。あまり設問が多いと回答率が減る可能性が考えられる。

(西嶋委員)

このアンケートはもう出来上がっているのか。

(井村課長)

いいえ。今からつくります。

(上林会長)

事業を続けたいのか、廃業したいのか、新規の増加、継承する場合子どもなのか他人なのか、それくらいの設問の追加でいかがか。

(松岡委員)

先日の経営発達支援計画の中でもその辺りに力を入れているので。

(井村課長)

松岡委員とも協議させていただき、アンケート内容を詰めて行きたい。それでこのアンケートを実施させていただくということによろしいか。

(上林会長)

今の案から少し設問を増やして実施するということで。
障がい者の雇用や製品に関するアンケートも含め他には何かないか。

(井村課長)

障がい者の雇用等に関するアンケートについては福祉課からの要望で実施する。

(上林会長)

障がい者のみならず、受刑者についての採用実態などは把握しなくていいか。今建設業が多いが、合志市でも20社ほどそういう企業の登録がある。

(西嶋委員)

以前から障がい者の就労については携わっている。合志市にも11ヶ所の就労支援センターがあり、10～30人の障がい者の方が施設外就労に行っている。今までなかなか福祉課も携わるきっかけがなかった。このようなアンケートを商工振興課と連携して取るのはいい機会だと考える。やってみた結果はまたこういう場で協議していただければいいと考える。

アンケートには福祉課の担当課・担当者等連絡先が欲しい。

(金田委員)

ポリテクセンターでもアビリンピックなど障がい者の技能競技大会なども実施しており、商品販売なども行っているのので、そこへ参加していただいてもいいのではと思う。

(西嶋委員)

就労支援センターは11ヶ所あるが、なかなか関わりがない。関わりをもつきっかけになればいいのかと考える。

(上林会長)

アンケートは無記名か。

(緒田班長)

無記名です。

(西嶋委員)

書いても構わないのでは。

(上林会長)

記名欄を設けておき、書かない企業は書かなくてもいいとしては。

(西嶋委員)

その辺りはまた福祉課長と協議し詰めていただきたい。

(上林会長)

それでいいですか。福祉課のアンケートについては企業名を書く欄を設けるが、書きたくない場合は無記名でも構わないとするという案で。

(委員)

異議なし。

(3) 事業実績及び平成28年度計画について

(緒田班長)

・平成25年度から27年度までの事業実績と28年度の事業計画について説明。

(上林会長)

中小企業店舗等近代化融資利子補給事業については前年度より大幅に増やしていただき、有難い。

(松岡委員)

非常に有難い。今は低利の為、申請数が増えている。

(上林会長)

新入社員の合同研修についても他の市町村では見ない取組み。新入社員と市役所の新規採用者が合同で学ぶことは大変意義のあること。

(西嶋委員)

この活性化会議が始まって何年？

(井村課長)

平成22年度からなので、6年目になる。

(西嶋委員)

新しい事業を始めたら、成果についても検証して行かなければならない。現在6年目ということだが、何年か後には一度検証して事業の見直しが必要では。新しい事業の提案も含めて必要では。民間企業であれば、成果の出ないものは切っていかなければならないもの。

(上林会長)

資料を見れば平成25、26、27年と実績は上がっているようだが・・・。

(西嶋委員)

この中の事業に限ったことではない。新しく要望もあるが、なかなか予算や人員の関係等難しい面もある。ただ、今後検証の場を設けるのも一つの方法ではないかと。何かを切るという表現はご幣があった。検証して建設的な意見を出すことも大事だと考える。

(穴井委員)

今の話は大体この会議で出ている筈。前回意見を言わせてもらった。今回そのことが何も入っていないが、新しいものを入れながら今後どうしていこうかという議論をするような場というのがこの活性化会議の本来の目的ではないか。

(西嶋委員)

穴井委員の指摘どおり、自分も色々やりたいことがあるが、様々な要因があり実現しない。

(上林会長)

時代とともに現状も変わってくる。それによって要望も変化してくる。

(穴井委員)

本来の活性化会議の主旨は、市がやっていることを我々が確認することじゃない。行政から出てくるものもあるだろうし、我々から提案するものを検討するのがこの活性化会議の場である。今日の会議でも、前もって我々の要望というか提案書を出させてもらってその提案書を取りまとめてこの場で議論するとか、そういう工夫は必要。

(上林会長)

辻委員、なにか建設業からありませんか。

(辻委員)

ぱっと出るものは・・・建設業も色々漠然としたものはある。ひとつひとつ進めていかなければならず、この場で話すようなことは・・・。

今の話とずれるが、今年度で委員の改正になるのでは。そうなると今の状況を考えると難しいのでは・・・。

(上林会長)

他に意見がなければ、事業実績と平成28年度計画についてはこれでよろしいか。利子補給も増額となり市としての姿勢も感じる事が出来る。

(委員)

異議なし。

(その他)

(緒田班長)

今回の委員の任期が今年度までとなっている。来年度改選となる。

(上林会長)

何か質問・意見は。

(池永委員)

アンケートはいつ頃実施予定か。

(緒田班長)

5年前の調査も5月頃実施している。大体それくらいを目処にと考えている。

(池永委員)

もし、回収率が30%を割ったらどうするか。催促するか。

(井村課長)

5年前のアンケートがかなり設問数が多く分厚かった。それもあって約30%ぐらいだったと推測される。30%を切れば、こちらも電話等をして回収に努めたい。企業連と商工会の総会でも周知をしたい。良くて40%ぐらいではないか。

(池永委員)

あまり回答率が低かったら、参考にならない。

(建岡委員)

せっかくの中小企業等のためのアンケートなので、自分たちのためにもアンケートに協力して欲しいと各会で伝えていただくのがいいと考える。

(濱田委員)

今後、市として施策を行う際に現状把握というものが一番重要になってくる。税金を使ってする事業になるのでそれなりの効果が表れるようなことはやりたい。予算規模自体も人口と同じく増えている。その中でも、社会保障、福祉費の伸びが非常に大きく、合併当初40億だった福祉予算が現在は98億、100億に近づいている。予算の半分は社会保障にまわさなければならない。投資的経費、将来的にまちづくりに寄与するような予算の枠組みが取りづらくなっている。そういった中で本当にまちをつくっていくのは中小企業であったり、企業の皆さんがどれだけがんばっていただけるかという部分に関わってくる。そういった中でこういったアンケ

ートでちゃんとした現状を押さえて的確な施策をうっていくというのが今以上に必要になってくる。合併から10年経ち普通交付税というものが各地方団体には来るが、合併の特例として旧町村ごとの計算式で交付税がきている。割増率が2割から3割あったが合併10年を過ぎると割増率が段階的に落とされていく。合併本来の目的は合併し大きな組織にすること。効率的な事務行政や予算執行ができるということで交付税が落ちてくる。それを10年間は旧町ごとの普通交付税の算定で動かしていたので割増分で助かった部分もあったがそれを5年で落としていく。合志市の場合当初の見込みでは7億円から8億円落ちるという話をしたが、国が緩和を入れてくれており、見えない部分もある。合志市は人口が伸びている。去年の10月の国勢調査結果から5年間で約3,000人伸びている。交付税は人口規模に応じて交付されるので人口が伸びた分は交付税も増える。段階補正で落とす分と増える分で、見えない部分が出てくる。それでも大体4~5億円程度は落ちるのではないかと。そうすると財源をどれだけ有効に減らしていくかというのが行政や議会の裁量であり、知恵の出どころである。そういった意味でもアンケートによる現状把握は結果自分たちに返ってくるというようなことで取り組んでいただけだと思っている。

(上林会長)

この活性化会議というものは行政と民間・企業の相互関係がうまくいき、企業が発展して税金を市に多く落とすことで還元するという「善」のサイクルが続けばいいと考える。行政の期待に応えるように我々民間も頑張らなければならない。

(穴井委員)

我々も中小企業政策をしっかりと勉強しなくては、この活性化会議の意味がない。なかなか勉強する機会もない。例えば次回は出家先生に1時間なら1時間程度現在の日本の中小企業政策というものがどのようにあるか話していただければどうか。各自治体の施策、色々なアイデアの例なども調査されているので、その中に有効なヒントがあるかもしれない。また、全国でエネルギーシフトという考え方が拡大している。既存の産業では頭打ちになっている中、エネルギー問題というものを一つのテーマにおいてその中で企業変革や新事業に取り組んで行く上で行政と一緒にやっっていこうという流れがある。うちの会社でも環境というテーマの下、新しい事業として太陽光発電事業という企業変換をしてきた。次に水力発電所の建設もどうやっっていこうかと研究・検討をしている。そういったエネルギーシフトなどについてもこの会議の中で議論して、それに関心を持ち取り組む企業を増やすようなことが振興条例のテーマではなかろうか。新年度に向けて勉強会やエネルギーシフト問題、その他色々なことを議論のテーマに挙げて行き、楽しく元気な会議にしたい。

(上林会長)

地元の企業も大小あり、今をどう生きて行こうかという企業もあり、前向きな企業もあり、総括してやっっていかなければならない。

(濱田委員)

エネルギーシフトは総体的に考えていかなければならない。太陽光発電だけではなく、エネルギーを使う作業自体を変えていくという考え方も必要となる。企業変革という部分でも、現在価値観が変わってきていると言われている。今ローカル思考というのが気になる部分である。東京一極集中を変えようという国の地方創生の考え方がある。我々の年代は高度経済成長を見てきた年代だが、若い人の考え方や価値観は変わってきており、その価値観をどうやって自社の企業活動に変えていくかというのにも必要になってくる。御代志駅の交差点付近に三角形の空き地がある。そこを利用し商工会にも手伝ってもらい自分で店をやりたいという若者たちがテントを建て、「闇市」と称して土日を使ってちょっとしたイベントをやった。そういった実験的・実証的なものもやりながら若者の意向を聞き、意識を上げるという取組みもできるのではないか。合志市のポテンシャルは高い。熊本 14 市の中で人口が伸びているのは合志市と熊本市だけである。熊本市と比べてもまだまだ合志市のほうが魅力があると思う。今までの意識ではない部分で物事を見ていくという新しい取組みを皆さんと考えることができればと思う。緒方委員のところの「オメガ3卵」の取組みなどは3~4年かかっている。バイオクラスター協議会等に入ってもらい取り掛かった事業だがゼロから始めるということは本当に手間隙がかかり、日の目を見るか見ないかも不透明な部分も多い。あきらめずに取り組んだ緒方エッグファームさんは現在非常に評価される商品をつくっている。今後はそういったものをモデルにしながら皆で考えていく必要がある。知恵をどうやって出すかにかかっている。

(上林会長)

現状と未来を含めたところの活性化会議になってもらいたい。その他として他に何かありますか。

(濱田委員)

先週熊本新聞に商業施設ができるという記事が掲載された。現在合志市は市街化区域の面積は市の1割しかないが昭和46年に熊本都市計画区域が出来て以後約45年間市街化区域を拡大することがなかった。国や県に市が働きかけ、やっと市街化区域を拡大する作業についた。今JTの前まで面積65haここを市街化区域に編入します。これについて先日、住民説明会を実施し、ヴィーブルの研修室の8割が埋まるほどの人が集まった。市街化区域に編入して賑わいをつくることに対する肯定的な意見を多く聞いた。今回は既設の合志工業団地やJT等も区域の中に入っている。今のJTはタバコの加工所としての用途しかとれない。合志工業団地も農村活性化構想で中小企業高度化資金を作った事業でありますのでその用途しかできない。代が変わる、業種を変えたいそういった場合でもなかなか用途規制で市街化調整区域、建て替えができないという状況を防ぐために、今回市街化区域に編入した。

また、飯高山公園と杉並台の間に現在農地が入っているが、なかなか酪農がしづらい農地となっている。農地の有効活用もあるため、その4haは住宅を建てるという地区計画をはりつけるところである。そこに地区計画をはりつけることによって住宅が連坦して工業団地が入って、間に紀水ナーシングホームがあり、晃栄(株)の土場がある。その前の13haの畑について

は十数年前から開発をということで旧合志町の時代から話が上がっていた。地権者 33 名で組合をつくり現在区画整理事業ということで事業をすすめている。中身は商業施設、福祉、サービスと住宅といった 4 つのテーマで事業立てをしている。ほぼ 8 割～9 割進出予定の企業との話し合いも済んでいるようだ。新聞報道にもあったように地元の農産物を地元で販売できるような施設も中に入れていく。市街化調整区域の農地を活かした商業店舗も中にはりつけるような賑わいのある町をつくらうというようなところで説明会を実施した。県との調整は完全に済んでいる。農政局とも大方のすり合わせが出来ている。うまくいけば 5 月下旬には県の都市計画審議会で決定をいただく形になる。45 年間動かなかった市街化区域の区域が 65 h a 増えるということで事業をすすめている。市外に流出している合志市の 500 億円を超えるであろう商業購買力を少しでも地元で落とし、就労の場所を少しでも合志市内につくる、そういった事業になる。

(上林会長)

それについてはなるべく地元の企業、商工会の参入が出来るような機会をつくっていただきたい。また、合志市としては御代志地区を核として市街化区域を広げ商店街をつくり、やっていくという構想とは別に J T 前を開発していくというのは少し矛盾を感じるが。

(濱田委員)

市の場合は総合計画というものが上位計画としてある。総合計画に基づいて合志市都市計画マスタープランがある。都市計画マスタープランをにらみながら作った重点区域土地利用計画というものがある。この中で重点としてとらえてあるのが御代志、そして竹迫、野々島のスマートインター周辺。あとは市街化区域に核となるようなところももっている。今レターバスが環状線的回っているが、全部核となる施設を置いておこうという考え方をもっている。その地域でちゃんと日用品が買えるそういった商業圏はつくっておく必要がある。合志市は商業店舗数が 14 市の中で最低である。製造事業所で大きなところが入ってくるということもない。雇用の場として一番重宝がられるのは商業施設である。そういう意味で雇用の場を創出するものである。

御代志は都市的機能は全て入っている。将来的にはやはり御代志が中心であろう。御代志は現在 20 h a の区画整理事業中で、地権者へ個別に出向き意向調査をやっている。御代志の駅周辺 20 h a。再春荘を入れているので民間部分の広さはあまりないが国道 387 号線沿線の商業店舗等が対象になる。市が考えているのが 387 号線の 4 車線化、再春荘から木原野にかけて（九州沖縄農業研究センターにかけて）の北側の道路、学園大裏の木原野に抜ける道を都市計画道路として木原野までひっぱりたいと考えている。御代志は駅の終点がある、国道がある、再春荘の建て替えがある、新しい小中学校の建設がある、恵楓園という広大な土地があり、カンントリーパークがある。都市的機能で欠けているのが商業だけである。商業施設を含めたコンパクトなまちづくりが今後限られた財源の中で行政サービスを展開していくなかで必要になってくる。御代志は個別に合志市の顔としていく必要がある。地域地域に応じた日常的生活ができるような圏域をつくるということと、合志市の顔となるような拠点をつくるという住み分けをした中でやっていく。

(西嶋委員)

竹迫の場合は歴史がある。御代志は事業説明会でもあったように事業ベースで 30 年とはいかないまでももう少しかかるかと。竹迫も何十年もかかった。御代志も大変な努力をしているが、飛び地になるということで苦労している。飛び地で市街化区域になるというのはあまり例がない。

(上林会長)

嘉島は最初から飛び地だった。

(西嶋委員)

確かにそうだが、ほとんど飛び地での市街化区域というものはない。竹迫の場合はあくまでも市街化区域の拡大ということで。あと、先ほどぬけていたのは辻久保。辻久保と野々島のスマートインターチェンジ周辺は市単独でやるのではなく、民間・県・国その他の機関団体との協議もある。我々としてはどこでも市民の意向があれば手をつけていただきたいし、準備していただきたい。合志市単独で何十年何百年行くのであれば中心はやはり御代志である。決して竹迫が中心というわけではないが、御代志の整備には時間がかかるものである。

(上林会長)

50 年ほど前、西合志町時代の都市計画の説明があったときに県から許可が出ず、御代志の発展が進まなかった。飛び地でも嘉島、鯨は入っているじゃないかと・・・押しが弱く 45 年経った今でも思い出す。あのときもっと住民も巻き込んで運動すべきであったのではないかと。合併してよいよ御代志が中心として市街化区域になると思ったら竹迫が先だと言われると個人的に少し思うものがある。

(濱田委員)

区画整理事業も公共施行と民間施行、組合施行というものがあるが、竹迫の場合は土地の所有者が協力してされる組合施行である。33 名の地権者の方々のがんばりがあったというのも一つの要因である。今後御代志は公共施行として市の財源を使ってやっていくところで考えている。今各世帯に回って話をきいているが、肯定的な見方はしていただいている。スマートインターと中九州横断道路が完成すると御代志は更に魅力が増す。熊本市や福岡と繋ぐ拠点にもなる。熊本市の都市交通網形成計画の中で、熊本市の周辺地域をまとめる連携拠点 8 箇所あるが、御代志はその中の 1 箇所と位置づけられている。今後鉄軌道というものが重要になってくる。JR 熊本駅の建設、桜町開発等など、今の道路事情を考えた際に高齢化の面でも重要となる。そういった意味でも御代志が核にならざるをえない。国県施設が周囲にあることを逆手にとっていけるような時代になった。恵楓園も入所者が 270 名をきった。ハンセン病療養所自体の統廃合というものはないのであろう。入所者の平均年齢も 80 歳を超え、5~10 年先にどういった土地利用をするのか、施設をどうするのか地元自治体として国と一緒に考えて行く時代となる。

(上林会長)

竹迫地区の開発はあくまでスマートインターが先であってそれに先走って開発しても意味がないのではないか。

(濱田委員)

先の見通しというものは商売人の方のほうがよく知っている。企業がこの竹迫の場所をどう捉えていくかというのは民間の考えである。色々な施設が入ることで集客があり収益を上げるだけのものかというのことは民間での話である。行政はそのお膳立てまで。

(上林会長)

他意見ありませんか。

なければ、これで議長席を降ります。

(井村課長)

これで第20回合志市中小企業等活性化会議を終了したいと思います。

【閉会】(午後2時30分終了)